

後援会だより

「子どもの母校は我が母校」
「後援会だより」は後援会が保護者の皆さまと作るページです。

2019年度支部総会・父母懇談会総括



後援会会長
渡辺 康太 (啓仁/理工学部)

令和初開催となった今夏の全国36支部の支部総会・父母懇談会は、7月6日(土)の鳥取・鳥根県支部、岩手県支部から、8月25日(日)の香川県支部、鹿児島県支部まで滞りなく終了しました。

その後の8月末に九州北部を襲った豪雨、9月に入ってから台風15号は、年々激しさを増す自然災害の恐怖を感じさせるものでした。被災された会員の皆さまにおかれましては、早期に通常の生活を取り戻されることを祈念いたします。

本学も近年においては、有名難関私立大学の一角として、世間から大変注目されております。「支部総会・父母懇談会」は後援会の年間行事の中でも特に重要なもので、当大学の現況、当後援会の具体的な活動内容を出席された



鳥取・鳥根県支部創立20周年支部総会・父母懇談会を終えて



出席いただいた
他、地元
新聞広告
で告知し、近隣
住民の方々に
無料でご
聴講いた
だき、大変盛況な会となりました。あ
らためて、お喜び申し上げます。

は、創立20周年を迎えた鳥取・鳥根県支部でした。ホテルセントパレス倉吉で、田中優子総長の公開文化講演「江戸から考える変革の時代」が行われ、校友会の役員も多数出席されました。来賓として石田耕太郎倉吉市長に

機運の高まりが見られます。法政大学はスーパーグローバル大学に採択され、大学憲章「自由を生き抜く実践知」を掲げて、さらなる進化・発展に取り組んでいます。私たち後援会も校友会と協力して、大学へさまざまな支援を行っていきます。また後援会本部としても、各支部会員の皆さまからいただいたご意見・ご要望を大学関係者に伝えたいと考えています。



引き続き、後援会活動へのご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



鳥取・鳥根県支部長
高取 剛 (侑史/法学部)

鳥取・鳥根県支部は、7月6日(土)に鳥取県倉吉市にて支部総会・父母懇談会および創立20周年記念事業として、田中優子総長の公開文化講演会と記念懇親会を開催いたしました。

支部総会では、田中総長、渡辺康太後援会会長にご臨席いただき、すべての議案が承認された後、新年度役員紹介・あいさつが行われました。

長、豊田信哉校友会副会長からの祝辞の後、渡辺後援会会長の乾杯のご発声により開宴、応援団のデモンストラーションと校歌斉唱により、会場が最高潮のまま終宴を迎えることができました。



支部創立20周年という節目を迎えられたのも、大学、後援会本部のサポートはもとより、先輩支部会員の学生支援に対する熱い思いがあったからであり、先輩から受け継いだ襷(たすき)が途絶えることのないよう、しっかりと引き継いでいきたいと思います。



講演には、地元倉吉市と名産品である「倉吉餅(くらよし餅)」の歴史も取り入れていただき、一般の方々にとっても興味深い内容だったと思います。

懇親会では、石田耕太郎倉吉市長、法政大学と鳥根県松江市は教育研究とまじりくりに関する連携協定を締結しました。これを機に、この山陰の地から一人でも多くの学生が法政大学へ進学し、進歩することを祈念しています。



宮崎県支部長
吉野 達三 (敬悟/デザイン工学部)

宮崎県支部では、7月28日(日)に宮崎観光ホテル西館10階スカイホールにて今年度の支部総会・父母懇談会を開催し、参加保護者38人(37家族)、法政大学より大学院事務部の沖田吉史部長をはじめとする3人の大学職員が、法政大学後援会本部より渡辺康太会長をはじめとする2人の役員が、総計5人をお迎えしました。

父母懇談会では、大学職員より学業履修について、就職状況とこの時期の保護者としての心構えについてお話ししました。また、渡辺会長より、全国の後援会や保護者の目を見た大学の様子についてお話しいただき、大変興味深く拝聴いたしました。



宮崎県支部は、会員数に対する役員数の割合が多く、支部活動への関心が高いのが特徴です。「子どもの母校は我が母校」の合言葉のもと、後援会本部と共に、学生を支える仲間として活動を展開してまいります。



審議し、この案にて承認を得ることができました。

具体的には、地元倉吉市と名産品である「倉吉餅(くらよし餅)」の歴史も取り入れていただき、一般の方々にとっても興味深い内容だったと思います。

